九月二十一日夕刊

常磐毎日新聞

夕刊

定價一部金貳錢一ケ月金五拾錢　郵税五厘
廣告料五號十二字詰一行金五拾錢
日曜祭日の翌日休刊
發行兼編輯人印刷人　川崎文治
福島縣石城郡平町長橋町三五
發行所　常磐毎日新聞社
電話六三〇番
印刷所　常磐毎日印刷株式會社

小山田滋小論

富田五郎

いつの頃だつたか、磐新文藝欄で短歌の表現形式について、辻斬浪人連中が好き勝手なマスターベイション論で大試合をしてゐたことがあつた。するとそこへ「水島亭」のペンネームで堂々と三日に渡つて短歌論が掲載された。辻斬浪人連中その太刀振の餘りにもあざやか過ぎるのに目をパチクリ…それはどうだつたか…そのまゝ試合は永久の中止に終つてしまつたことがあつた。短歌は其の時代の時代意識を表現して如實に社會性を持たなくては駄目である。だから政治組織とか經濟組織とか、そうした社會組織を研究した基礎知識の上に作られた短歌でなくてはいけないと、云ふような論調であつた。これは短歌にのみ通用すべき意見ではない、全文壇に適用される論文である、現在文壇で叫ばれてる能動主義と謂ふのと同じ主張である。

當時これは磐陽の文藝人ではあるまい、中央の評論家が寄せたものであらうと信じられてゐたのであつた。ところが後になつて水島氏こそ小山田滋氏であることで判つて、氏を知る人達は成程と肯れたのである。

詩南社が行方不明となり、雜多な同人雜誌が朝露の如く除命幾何もなく消滅して、磐陽の文藝界は殺風景な存在に終らんとする時…少し誇張した言方だが…短歌「潮音」の支部を磐陽の天地に産聲をあげさせ、有衆無衆の文藝人を一括してこれに走らしめた手腕は、中央で仕上げた小山田氏なう。

氏は常に二十年苦勞した藝歌は自分の趣味として合致したものであるから、今更敍文へは行けないと云はれるが、あれだけの文藝に態する意見を持つて、セノログ文學から半歩足を出した程度の客觀性しか持ち得ない短歌に終始して居ることは實に不思議なことである。表現される社會性を認めても短文の眼界は明かに極めて狹いものである。だが小山田氏は百も承知、二百も合點してゐるのである。過去に於いて潮音に反旗をひるがへし、尖鋭なる短歌誌「現代生活」を發行した同人の一人として、時代の變化による一通りの苦勞をして、宗匠主義の是を認めた賢明さは充分にそれを物語つてゐるのである。

散文藝術を識り、そして短歌に終始してる氏は或る意味に惜しい存在であり、或る意味に於いて文藝的仙境に達した月經あがりの觀がある。【完】

○明日の献立○

【朝】味噌汁—しじみ
小付　やきのり
【晝】南瓜煮付
【晩】いか胡瓜三杯酢
いかのあし燒　豆腐
煮付

文藝募集

廣告

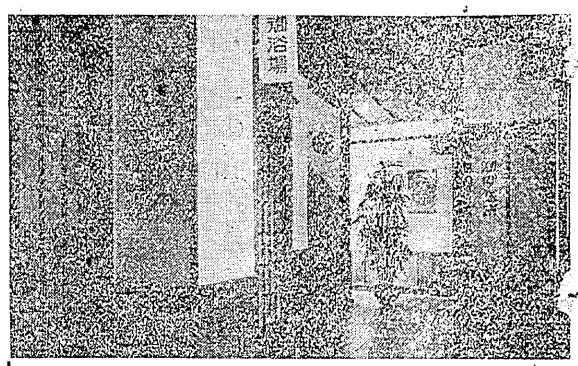
上田病院
平町南町
電話二二九番

石炭一〇〇パーセント
サーヴィス
時節柄ダンゼン値下げ！
特等塊　正味五〇斤入一俵　金貳拾八錢
一塊同　金參拾五錢
品質が優良（デナケレバ）値段バカリ安クトモ結局
目方が正確（高イモノニナリマス）
此の点は當店を絶對に御信用願ひます
◎市内は一俵より配達致します
電話三七番
石炭　コークス　豆炭
阿部石炭商店

味覺の秋を樂しみ得る
香氣の高い松茸
料理を始めました
出前迅速
錦水
電四五四

平田町
レストラン サロン
電三五二番
店主が店員を連れて行かれる
正シイ食堂
正シイ喫茶
正シイ酒場

清涼の小瀧へ!!
◇宿泊料　1.50　2.00　2.50
（御滯在は左記料金にて中食料をふくませます）
◇日歸浴席料　.20
◇自炊料　.50—.80　入湯料・室料　夜具料一切
◇料理—定食　.80　1.00　1.50　その他一品料理洋食
◇湯効　神經痛・リウマチス・胃腸病・痔疾・婦人病・逆上・中風・肥胖病
（内務省東京衛生試驗所檢定濟）
◇諸設備　撞球臺・高級ラヂオ・大廣間・讀書室・近代式浴場と洗面所・水洗式便所・小動物園・タクシー部・御子樣運動器具
◇名物　川魚料理（うなぎ・鯉）　蜂密羊かん
◎女中數名入用
磐常線湯本驛　小瀧鑛泉
御旅館　御自炊　瀧の湯
電話　小名濱　103番



松茸料理を始めました
平ニ磐察景色ヨリ
魚清食堂
電話六三三三

池坊盛花投入華道會員募集
一ヶ年卒業　花型構成ノ原則ヲ解放
初心者ヲ標準トシテ華道ニ關スル理論及技術ノ大要ヲ確實ニ習得セシム
科目　華道應用盛花、投入、生花、立華
教授場　華道應用盛花、投入、生花、立華
時期（毎週金曜）性源寺　平町長橋町午前九時ヨリ正午マデ
（平出張事務所）平町田町午後一時ヨリ夜間部アリ
講師　池坊華道會長　先崎翠峰先生
申込其他　御用ノ際ハ電話五二六番
（出張事務所）（味岡子之松氏方）御利用下サイ
◎尚御希望ニ應ジ出張教授モ致シマス
主催　池坊華道會

平青年團が一夜講習

來月十三日に

奥村聯合理事來平

本縣では來月十三日平町に於て青年團員の一夜講習會を開くが當日は午前五時から翌朝十時迄講義、協議、唱歌、體操、遊戯等夫々指導する筈で講師は大日本聯合青年團理事奥村全應氏及び縣の係員等であると

麥の格付

共販は米收後

既報の如く本郡大麥は格付協議の結果甲乙丙及び等外の四等に分ち各農倉の入庫を見て第一回共販をする筈であるが不順の天候關係で生産者が手放すのは米の收獲を確認してより後になるべく從つて共販は來月中旬になる見込みである

青年學校

事務室移轉

平町青年學校の事務室兼銃器室はいよ〳〵明廿二日竣工の運びとなり來る廿八日頃移轉する由

山間の冷害

昨年より激甚

免税が約二萬筆

似上に及ぶ模様

既報川部、石住、荷路夫等山間地方の冷害に就き平税務署では免税の關係上署員を派して前記地方の稻作狀況を調査中であるが現在の處では山間部落の平坦地ですら二割減と見られ高地部落に至つては二分作と云ふ箇所もあるので昨年の免税八千筆約三千圓が本年は二萬筆五六千圓程度に增加する模樣なので免税の申請漏れのないやう各町村役場に注意書を發すると

除隊兵就職

紹介所が優遇

平町職業紹介所は最近各方面に叫ばれる除隊兵優遇の聲に徵して來る十一月の若松、仙臺兩聯隊除隊兵の就職斜旋を聯隊輔導部と連絡を取り從來以上廣範圍に斡旋する方針であるが更に傷病軍人の優遇も計ることになつた

山間橋梁竣工

三阪村の山神橋は工費二千四百五十圓永戸村の渡戸橋は工費千三百三十五圓で夫々架替工事中の處此程竣功昨十九日縣土木課の遠藤技師が竣工檢査を行つた

最後の白兵戰に其筋の眼が光る

警察部から應援隊

五日間の豫定で濱通りを

餘すところ四日に迫つた縣議選取締のため縣警察部取締應援隊長松本特高、山崎保安兩課長が本日から五日間の豫定で來郡濱通り警察官の取締を督勵する由

平近在の學童

明日健軀を競ふ

第三區學童陸上競技大會はいよ〳〵明廿二日午前八時卅分から磐中グランドで擧行されるが參加校は

内郷尋高　同第一
三小川　好間尋高
間第一　赤井第一
二川前　飯野桶賣
平窪　平第一　同第二
同第三　内郷第二　同第

の十六校で競技種目左の如くで女子四百繼走は來月八日の磐女運動會に於ける郡下學童優勝旗爭奪戰の前哨戰として注目されて居る

走高跳　走巾跳　三段跳
ボール投　五十米　百米
二百米　四百繼走　六百繼走
八百繼走　六〇米ハードル
八〇米ハードル

尙今廿一日午後一時から平第一校で役員打合會を開いた

平町壯丁兵種抽籤結果

平町本年度壯丁の甲種合格者の抽籤は過般福島聯隊司令部に於いて執行されたが平町在籍者左記二十一名の兵種は左の如く決定した旨本廿一日町役場に通牒が入つた

(歩兵)田町小野信　大町植田一男　南町山内主税　大泉正廣　下川原鈴木庄次　長橋龜岡貞雄　二丁目佐久間正晴　田町阿部吟二郎　仲町古市勇　紺屋町水竹正二　仲町高橋義人(山砲)北目柴野員夫　二丁目星野喜久治(輜重特務兵)高月飯野盛男　下川原金成金雄(工兵)正月町木田拓　新川町三浦正松(鐵道兵)鷹匠町小泉農雄(野砲兵)鎌田町志賀修三(機關兵)仲間町箱崎竹雄(水兵)材木町藤崎勝次

軍刀術へ出場

夏井村元海軍三等兵曹大友能一氏は十月二日擧行される明治神宮体育大會に福島縣郷軍代表として軍刀術試合に出場する

平町人事

回死亡

△白銀町　當時臺北州臺北市千歲町一丁目　松本翠(六九)さん

平職業紹介所報告

回人を求める方

△粕〆　二十六才　月十圓
△雜夫　二十前後　月十四—五圓
△蒲鉾製造見習　十八才　尋卒　月五—六圓外仕着
△寵製造見習　十八才　高卒　日給三十錢

回職を求むる方

△製糸工　二十二才　高卒
△コック見習　十八才　高卒
△ミシン見習　十八　高卒
△旅館女中　二十五才　高卒

廿五錢だけ輕くなつた僕のガマ口

平町を漫歩して

招夕べの街は暗く

闇夜の空の一点がぽーッと明るいそのかすかなほの明さの中秋の空の懷ろに靜寂な城山は五万石の城下町だつた過去の平の閑雅さを思ひ出してゐる樣ではある——だが、今の平町は四六時中休息を知らない活動の街であり生ける資本主義社會機構の中に血みどろの生活にあへぐ人達の高鳴る心臟のシンボルだ

大小無數の天空に向けた砲口に似た工場のそして商家の煙突から湧き出る煤煙は白雲にいどみ白光を邪ぎつてゐる、ダイナモの騷音と疾馳する交通文化網の狂聲に疲れた人々は夜の暗さを——闇の裡に、明日への休息を求めて秋宵の巷に放浪するのだ珍らしく晴れた昨夕、何時ともなく街に出れば同じ樣に巷に漫歩する夥しい

散歩人で　はある、空氣がしんみり柔かい一丁目から自然二丁目へ——あれほど賑はつた植木市も打續いた冷雨と寒さに怖えて影が薄く、只人寄に狂奔するカフエー街の世紀末的騷音の潮流亂舞——店内に人氣の無い商店の照明が何か憤つてゐる樣で「ッッ、、、」逃げるが如く三丁目三井通りの野菜市場へ——此處は亦カン高い金屬性の

お神さん　奥さん娘々々のお臺所經濟學の第一課だ、買ひ物上手な女々々の洪水——、時折太いバスが「ゴ五錢ダッテエ之が……」こぎられたらしい野菜賣の若衆の顏負したトタンの突調子もない高聲が折柄街に散見する縣會候補の立看板に「ブル、、」と反應する。颯爽?と大根を兩手にぶらさげた學生らしいネルの後姿にも——「幸福の大根よ噫々」とひた〳〵と晩秋のわびしさが感じられるのだ

「近頃は娘さんまでこぎるんでサア」之がお臺所

經濟學の　骨であるらしい、三丁目裏の川岸通りを無事に通り拔けた眼にコリントゲームが氣になつて這入つて見る「おやんなさいヨー」振り返つた僕に「アラ貴方上手そうネ」俄然氣を呑まれてしまふ、まだ一回だつてやつたことがないんだ、暫くして歸途についた僕のガマクチからは當然廿五錢差引かれた事に依つて輕くなつて居る「フ、、、」無暗に面白くて

何時の間　にか金がかゝつてゐる巧妙な大人の遊戯場だ、廿三夜尊は緣日で人、人、人のどよめき！で兎も角秋宵の散策は臥床に這入つてからの僕に、歸途に横目で見て通つたシネマ館側の葡萄を一房夢で味覺さして呉れたデス

地下採掘で
宅地に縦横の龜裂
大黒柱がメリ込んで
家屋は微風にも搖ぐ
磐炭を相手に訴訟提起

石城郡内郷村大字宮字瀧五十二農高萩辰男は新田目、松野尾兩辯護士を代理として磐城炭礦法定代理人淺野總一郎氏を相手取り平支部に地下採掘被害に關する訴訟を提起し注目を引いて居る理由は昭和八年春頃から磐炭の地下採掘により宅番八十一坪の地表に縦横の龜裂が走り土地の沈下甚しく家屋が次第に傾斜したので再三會社へ交渉したが單に外側に丸太棒六本で支へたのみなので最近では大黒柱の土臺の玉石が全く地中に沒し微風の日にも動搖激しく生きた心地もしない有樣で此儘では何時倒壞するかも知れぬ故家屋の床下全部に經六分ボルトの竪横二尺間違取付の鐵筋コンクリート基礎工事をされたいと請求に及んだのである

闇に咲く花に
月一回の陽光
昨日は映畫の總見

平町南町の飲食店街に闇の花として蠢めく九十名の酌婦達は月一回の公休も殆んど名許りのもので働いて居たが平三業保健組合では是等籠の鳥の酌婦達にも人並みに一日の自由を與へる事を申合せたので毎月廿日の公休日には料亭の各營業者が休業して映畫其他の方法で彼女等を慰安する事となり昨廿日に第一回の一齊休業を實行し夜間は世界館特等席で總見させた

大捲揚機
第二磐炭取付

既報の如く七時間勞働制を確立した磐崎村第二磐城炭礦では現在の斜坑の出炭が確實になつたので十一月から更に大字長倉の本坑開鑿を行ふことになり本邦隨一の八百馬力の大規模捲揚機を使用すると因に北海道夕張の六百五十馬力を凌駕する百五十馬力の强力なもので各炭礦から注目されてゐる

昭和人絹
防毒設備

錦村の昭和人絹工場の鹽素ガス流出は從來も屢々部落民間に問題を起して騷がれたのでガス流出の防止を計る爲め工費三千餘圓を投じ室内のガスを石灰水中に誘導し無害化せしめ更に部落との中間に板塀を取付け收獲時を控へる部落民の被害除去を計る設備に着手した

櫻の古枝
頭上に落下
兒童が怪俄

平町杉平第一小學校高等一年生廉又一美（一四）君は去る十九日午後三時頃受持松崎訓導に指揮され級友數名と校庭で櫻の古枝を伐採中切り落した古枝に頭部を叩たれて昏倒し全治一週間の裂

神棚の下で咳拂ひ
神罰？直ちに捕はる
逃れた賭博の片破れ

平町新川町一三鳥肉商今井一（三二）は廿日朝同町白銀町同業者長谷川磯五郎（五三）方で同人妻ふく（五一）紺屋町松本義直（四三）の四名車座になり現金賭博中平署員に踏み込まれ今井は逸早く逃走三丁程離れた五丁目八八祈禱師菊地ヤイ方の祭壇床下に潜伏したが同午後二時頃神罰覿面床下の塵で咳拂したとたんに馳けつけた平署員に難なく逮捕された

物故教員
花を献げて

平第一小學校は今廿一日午後零時半から職員並に生徒代表が物故舊職員の墓參を行ひ少年赤十字團の名で同校園藝部が咲かした花を献げた因に物故職員左の諸氏である

（長源寺）武川敎義（大寶寺）引地淳四郎　加治鐵雄（大林寺）橋本喜高　永山光吉（性源寺）矢野弘平　大須賀百世

彼岸の刑務所

平刑務所では今廿一日の彼岸入りに際し性源寺の囚人墓地の清掃を行つたが來る廿四日の中日には磐城佛敎慈善會長遠藤心光師を招ぎ吉岡所長以下職員參列慰靈祭を行ふと因に在監中の物故者は二百七十六名である

お友達の追悼

平第二小學校は今廿一日今年中幼くして逝いた四名の兒童の爲に各級で追悼會を營んだ

天氣豫報

仙台放送局

今晩も明日も北西の風晴曇半す

今晩の部

▼後六、〇〇 うたのおけいこ　柴田秀子
▼後六、二五 講演「江戸時代の海運」古田良一
▼後七、三〇 十和田の夕　講演「十和田の傳說」小笠原松次郎　名所案内くらべ「十和田線觀光バス沿線案内」竹谷てる「十和田湖上遊覽船案内」大島ふみ子「歌謠曲」八戸市藝妓連
▼後八、二〇 哥澤　芝千代
▼後八、三五 二重奏と管絃樂團　伊藤敦子　新交響樂團
▼後九、〇〇 時事解說「伊エ紛爭その後の情勢」林毅陸

明日の部

▼前九、三〇 うたのおけいこ　柴田秀子
▼前一〇、〇〇 日曜勤業百方遍知恩寺中繼
▼前一〇、四〇 趣味講座「陶淵明と蘇東坡」國府犀東
▼前一一、一〇 宗教講座「彼岸會法話」栗山泰音
▼前一一、五〇 東京大學野球リーグ「早立、明帝戰」神宮球場
▼後〇、五〇 映畫とレヴユウの午後　映畫劇「ジンタ五人組」PCL連中
▼後一、三〇 思ひ出の活動寫眞大會　西村樂天
▼後二、二〇 歌舞伎レヴユウ「秋のをどり」松竹少女歌劇
▼後二、五五 主題歌集　松平晃
▼後六、〇〇 子供の時間　童話劇「三尺三五平」JBKコドモ會
▼後七、三〇 日曜特輯ニユース演藝　田邊南陵他
▼後八、〇〇 常磐津「お夏狂亂」常磐津松尾太夫他
▼後八、三〇 謠曲「七騎落」梅若万佐世他
▼後九、〇〇 講談「槍持甚兵衛」一龍齋貞山
▼後九、三〇 時報　ニユース　氣象通報　番外告

ペタルを踏む
農村青年
けふ平町に

相馬郡大野村青年團塚部分團では團長鈴木忠君以下二十三名の團員が本日正午頃平町まで遠路自轉車で踏破し來り二日間の豫定で郡下農業狀況を視察する

唯野稅務署長榮轉
後任は高屋氏

仙臺稅務監督局管内稅務署長級の移動發表された處に依ると廿日附平稅務署長唯野喜八氏は郡山稅務署長に榮轉後任に白河稅務署屬高屋俊造氏が來任する

間稅課長赴任

坂下稅務署へ榮轉した平稅務署寺山間稅課長は今廿一日午前八時卅分發列車で赴任した

運動會の豫行

第平三小學校の秋季大運動會は來月六日開催される爲め四日豫行演習を行ふと

平裁判たより

△石城郡植田町大字植田字本町二自動車運轉手櫛田四郎（二四）が去る七月三十一日午前十一時卅分頃トラックを運轉同町小名田地内を進行中道路左側で遊戯中の同町佐藤喜惣衛氏の長女つや子（五つ）が突然横斷せんとしたのを急停車で間に合はず轢き倒し頭部挫滅により即死せしめた事件は業務上過失致死罪で平區香西判事より略式罰金百圓に處された

明治太平記

（原案許諾・上映及上演）

（作）春島泰史
（畫）宮口源

第二百三十二回　開化の鬼（九）

『だんなさま』
『……』
『あたしのたつたひとつのおねがひ……』
『云つてごらん』
『ウエルズをあたしに…』
『なに？』
『あたしに、殺さしてくださいまし』
『なぜです？』
『はい、あんたが手をくだしてあの人を殺したンでは世間がいやでござんすけどあたしが何するンでしたら世間からは、賣笑婦に、らしやめんにウエルズが殺されたとウエルズが物笑ひの種になります』
『うむ』
『そのうへ、だんなさまの權力であたしが人殺しの罪をまぬかれることができませう……』
『なるほど、あなたはそれほど……』
バークスはうれしげに碧眼をかゞやかした。
が、後庭の芝生をあとにふたゝびバルコニーへかへつてくるとおとわのいのちがけの仕事がばらの華やさを咲かして待ちうけてゐた。
ウエルズが背後をみせて約束通り椅子に腰かけてゐた。敵がそこに居る以上助太刀屋もその近くにゐて兇器の鞘を拂つて待つてゐるのだ。

好機到來……
だが、そこにはウエルズのほかにまだ多くの高官貴婦人たちが涼をとりながら雜談に耽つてゐる、談笑、靴音、香水の匂ひ、煙草のけむり……。
おとわはためらつた。しかしこの機會をのがしたらウエルズとはふたゝび相會べた女郎たちだ。まけるものか……
人々の視線をおそれながらもおとわはこゝろのうちに呟いた。
ウエルズは眼をあげておとわを迎へた。こちらもまた悅しげな表情をしてそれに應へた。けれどもそれだけでその以上この人群の中ふことは出來ないだらう。バークスの話ではウエルズは近く支那へ渡るさうだ支那へのがしてしまつたらそれでおしまひだ。
――なあに、貴婦人や大官なぞ……。
おそれて仕事はできるものかとおとわは勇敢にバルコニーの人群の中に入つていつた。そしてづか〳〵とウエルズの腰掛てゐる椅子へ近寄つた。
――この邊にゐる貴婦人たちだつて、もとはたいでい祇園の唄ひ女か品川のすで言葉をかはすことをお互に控へた。
そのうちに、踏舞室から管樂合奏の音が波濤のやうに湧きあがつた。ふたゝび踏舞がはじまるのだ。人々はぞろ〳〵と踏舞室の方へ流れてゆく。
『小貴婦人』
ウエルズのよそゆき聲だバルコニーに涼をとる人々はほとんど影を消したのにウエルズはゆつたりと長椅子に腰かけたまゝシガーレットの紫煙を吐いてをる。
『……』
おとわは默禮してウエルズとならんで腰をおろした
『あなた頭痛しますかな』
ウエルズのあぶら切つたおほきな身體がおとわを押しつけた口先では、はじめて會つた人のやうな口をきゝながら彼の五體から無數の觸手がはへておとわの全身を愛撫しようとする。

外科
内臓外科
レントゲン線
◇病室完備◇
醫學博士　諸橋鐵彌
㊐新川町二七（電四六四）

吉田眼科病院
平紺屋町電話六八番
醫學士　吉田久雄

專門
産科
婦人科
花柳病科
◎入院隨意
井坂醫院
平町田町一　電話五五九番

株式賣買
合資會社　三共商事
大町　電話三六〇番

産婦人科
外科
藥局
院長　木村寅次郎
醫學博士　内木宗八
藥劑師　玄番彌一
平町新川町十九
病室完備
入院隨意
木村病院
電話一六四番

歯科口腔外科
レントゲン科
平町土橋通り
電話三一番
院長　東京歯科醫學士　原精一
東京歯科醫學士　柏倉武男
原歯科醫院